

手術時に休薬が必要な経口女性ホルモン関連製剤

2019年4月

◇女性ホルモン製剤には、卵胞ホルモン(エストロゲン)製剤、黄体ホルモン(プロゲステロン)製剤、卵胞・黄体ホルモン配合剤などがあり、重大な副作用に血栓症があります。
 ◇特に低用量ピルをはじめとする卵胞・黄体ホルモン配合剤は、添付文書の「禁忌」に、「手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内および長期間安静状態の患者[血液凝固能が亢進され心血管系の副作用の危険性が高くなること]と記載されています。
 ◇本一覧は、当院(院内・院外)採用薬と未採用の先発医薬品に関して、手術時に休薬が必要な女性ホルモン関連製剤を記載しています。
 ◇後発品に関しては一般名を参照の上、先発品の休薬期間に準じてください。
 ◇休薬期間に関しては、各薬剤の添付文書上の術前休薬に関する記載を参考とした日数としています。患者ごとに血栓リスクを考慮して、妥当性のある休薬の有無とその期間を決定する必要があります。

●:院内採用薬 ○:院外採用薬

分類	採用区分	薬品名	一般名	休薬期間	添付文書上の休薬に関する記載	
卵胞・黄体ホルモン配合剤	低用量ピル	シンフェーズT28錠	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン	4週間	【禁忌】 手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内および長期間安静状態の患者 【重要な基本的注意】 本剤服用中にやむを得ず手術が必要と判断される場合には、血栓症の予防に十分配慮すること	
		○(28錠) アンジュ21錠、28錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル			
		トリキュラー21錠、28錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル			
		ラベルフィーユ21錠、28錠	エチニルエストラジオール・レボノルゲステレル			
		ファボワール錠21、28	エチニルエストラジオール・デソゲステレル			
		マーベロン21錠、28錠	エチニルエストラジオール・デソゲステレル			
	月経困難症	○	ヤーズ配合錠	エチニルエストラジオール・ドロスピレノン		4週間
		○	ヤーズフレックス配合錠	エチニルエストラジオール・ドロスピレノン		
		○(ULD)	ルナベル配合錠LD・ULD	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン		
		○(LD)	フリウエルLD・ULD (ルナベルの後発品)	エチニルエストラジオール・ノルエチステロン		
中用量ピル	○	ウェルナラ配合錠	エストラジオール・レボノルゲステレル	医師の指示	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態:体を動かせない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと 【慎重投与】 術前又は長期臥床状態の患者	
	●	プラノバル配合錠	エチニルエストラジオール・ノルゲステレル			
	○	ソフィアC配合錠	メストラノール・ノルエチステロン			
	○	ルテジオン配合錠	クロルマジノン酢酸エステル・メストラノール			
卵胞ホルモン製剤	○	ジュリナ錠	エストラジオール	医師の指示	【重要な基本的注意】 血栓症のリスクが高まる状態:体を動かせない状態等が認められる場合は、投与を中止するなど適切な処置を行うこと 【慎重投与】 術前または長期臥床状態の患者 【慎重投与】 手術前4週以内または長期臥床状態の患者	
		エストラーナテープ	エストラジオール			
	○	ディビゲル	エストラジオール			
	●	エストリール錠	エストリオール			
		ホーリン錠	エストリオール			
	●	プレマリン錠0.625mg	結合型エストロゲン			
黄体ホルモン製剤	●	ヒスロンH錠200mg	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	医師の指示	【禁忌】 血栓症を起こすおそれの高い次の患者 手術後1週間以内の患者 【慎重投与】 血栓症を起こすおそれのある次の患者 手術後1ヵ月以内の患者	
エストロゲン受容体修飾薬	閉経後骨粗鬆症	○	ビピアント錠	バゼドキシフェン酢酸塩	医師の指示	【禁忌】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等) 【重要な基本的注意】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る前には本剤の投与を中止し、完全に歩行可能となるまでは投与を再開しないこと
		●	エビスタ錠	ラロキシフェン塩酸塩	3日間	【禁忌】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等) 【重要な基本的注意】 長期不動状態(術後回復期、長期安静期等)に入る3日前には本剤の投与を中止し、完全に歩行可能となるまでは投与を再開しないこと